



松ヶ江南小だよ！

松ヶ江南小学校校長室

学力特集号

平成29年11月22日

文責 上杉 良子

みんな仲良く げんきで はたらき まなびとる 子ども
「松南ゆるキャラ みげま団長」

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

平成29年4月18日（火）に、全国の小学校6学年と中学校3学年を対象に「全国学力・学習状況調査」（文部科学省）を実施しました。「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」とがあり、それぞれについて調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。本調査も、そのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では、調査結果も重視しつつ、今後も他教科等も含め総合的に学力向上が図られるよう指導の充実に努めてまいります。ご家庭でも家庭学習ハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

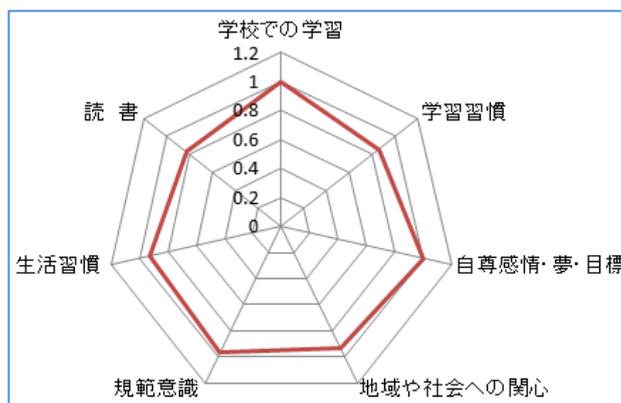
1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	全国平均正答率との比較	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語A	下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> どの領域も、全国平均正答率を下回っていた。特に、漢字の読み書き、古文、俳句、ことわざに関する問題に課題が見られる。 お礼の気持ちを伝えるためにどのような内容を書いているのかを説明する問題の正答率は全国平均正答率と同程度で、無回答はいなかった。
国語B	下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に、全国平均正答率を下回っていた。特に、「書くことと話すこと」・「聞くこと」に課題が見られる。 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える問題の正答率は、全国平均正答率より若干高かった。
算数A	下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 正答数が全国平均正答数を大きく下回っている児童の割合が全国平均よりも低く、昨年度と比較しても低くなっており、内容の定着が図られてきている。 正答数が全国平均正答数と同程度の児童の割合が全国平均よりも高く、正答数が全国平均正答数を大きく上回っている児童の割合は全国平均よりも低かった。 数量や図形についての技能に関する問題の正答率が低かった。
算数B	下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に、全国平均正答率を下回っていた。他の領域に比べると、量と測定の正答率が高かった。 示された考えを基に、数が変わった場合も同じ関係が成り立つことを図に表す問題の正答率は、全国平均正答率と同程度であった。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

(1) 学校での学習活動

- 学校での学習については、「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた」・「授業で扱うノートに目標とまとめを書いていた」と回答した児童の割合は、どちらも15ポイント以上も全国平均よりも高かったことから、今後も目標を明確にした授業づくりに努めたい。
- 「国語の勉強は大切だと思う」・「国語で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思う」と回答した児童の割合は、どちらも全国平均より大変高く、算数についても同様の結果となった。全ての教科の基礎となる教科の大切さや必要性を感じている児童が多いことから、日々の授業において、それに応えるべく指導方法をさらに工夫改善し、学力向上が図られるよう組織的な取組の強化に努めたい。



(2) 家庭での生活習慣等

- 「生活習慣」については、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」や「毎日、同じ時間に起きている」の間に「当てはまる」・「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均と同程度である。テレビやDVD等の視聴時間については、「4時間以上」と回答した割合は、全国平均の2倍以上も高い。また、テレビゲーム（携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）を1日に3時間以上行っていると回答した児童の割合は、全国平均の約2倍にも上る。さらに、「テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている」と回答した児童の割合は、全国平均より約6ポイント低く、「全く決めていない」と回答した児童は、全国平均の約2倍も高かった。そのため、家庭の協力を得ながら、生活時間を見直し、改善を図ることが急務である。
- 「規範意識」については、「学校の決まりを守っている」と回答した児童の割合は、全国平均より約9ポイントも高い。この意識を実生活に結び付け、最上級生としてのさらなる自覚と責任をもたせ、リーダーシップを発揮できるような場を多く設定していきたい。
- 「自尊感情・夢・目標」の中の「自尊感情」については、「自分には、よいところがあると思う」と回答をした児童の割合が全国平均よりも8ポイント以上も高いことから、今後も自尊感情が高まるように自己効力感や有用感、かけがえのなさなどを実感できるような取組を一層推進していきたい。また、「夢・目標」については、「将来の夢や希望をもっている」と回答した児童の割合も、全国平均と同程度であった。今後、道德教育やキャリア教育を充実させるとともに、夢を実現させるために、今何をすべきなのかをしっかりと意識づけるような働きかけを行っていきたい。
- 「学習習慣」については、「家で学校の宿題をしている」と答えた児童の割合は全国よりやや高いが、「家で、自分で計画を立てて学習している」と回答した児童の割合は、全国平均を10ポイント以上も低く、「全くしていない」と回答した児童の割合は、全国の約2倍に上ることから、まずは、宿題も家庭学習に含まれることを意識化させたい。その上で、家庭学習の課題の出し方を工夫するとともに、自主学習についても家庭の協力を得ながら進めていく必要がある。また、前述の生活時間の見直し・改善の点からも、積極的にアプローチしたい。
- 「読書」については、「読書は好きだ」の間に対して肯定的な回答をした児童の割合が、20ポイント以上も全国平均よりも低い。また、「学校の授業以外で読書をする時間」を問う問題で、1時間以上と回答した児童の割合は、全国平均よりも5ポイント以上低く、「全くしない」と回答した児童の割合は、約24%（約4人に1人）で、全国平均よりも4ポイント低い。そのため、読書への関心を高める取組を推進するとともに、家庭学習の中にも読書を取り入れるなどして、「家読」の習慣化を図りたい。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教科に関する取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一単位時間の中で、目的を明確にしたペアや小集団等による話し合い活動を位置付け、表現力やコミュニケーション能力を高めるとともに、思考の広がりや深まりが実感できるようにする。 ○ 視点（「ありがとう！助かったよ！」「すごい！ここが良かった！」「こうすると、もっと良いと思うよ！」「そうか！なるほど！」「おや！なぜかな？」等）を与えた振り返り活動を行い、学習内容を確認するとともに、自他の高まりに気付いたり、自己効力感をもたせたりする場となるように働きかける。 ○ 学力向上のための特設時間実施（全校一斉）及び全校での取組を徹底する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語の基礎的・基本的能力 → 毎週火曜日に全校で行っているMIMの継続実施と補充問題を徹底 ・ 算数の基礎的・基本的内容 → 毎週木曜日に「基礎・基本定着問題」・「診断問題」を全学級で実施 給食の準備時間を活用した補充学習（マスタータイム）の継続実施 ・ 漢字を読む力 → 国語科の授業でフラッシュカードを全学級で活用・実施（定着と意欲喚起） ・ 漢字を書く力 → 週に1回以上漢字の書き取りの小テストを全学級で実施（定着と自信） ○ 本市教育委員会作成の単元末テストを継続して実施する（4学年以上）。 ○ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークを単元末に位置付けたり、冬休み、春休みの「家庭学習」として活用したりする。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">家庭生活習慣等に関する取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の意義や取組状況等について、通信・懇談会等、あらゆる機会を通じて家庭や地域に情報を発信し、協力を求める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 10分×学年を家庭学習の時間の目安として設定していること ・ 宿題以外の家庭学習について具体例（家庭学習チャレンジハンドブック等）を紹介する。 ○ 生活習慣・生活態度の見直し・改善について、家庭へ働きかける。 <ul style="list-style-type: none"> ・ テレビ等の視聴とゲーム・携帯などの使用に関して、家庭でルールを決めて徹底するように、通信・懇談会等、あらゆる機会を通して保護者に働きかける。 ・ 規則正しい食生活や基本的な生活習慣の定着、生活時間の見直し・改善等の大切さや必要性について、情報を発信するとともに協力を依頼する。 ・ 学校のきまりの遵守の徹底と家庭への周知を図る。

